

議 長 日程第14、総務文教常任委員会所管事務調査報告を議題とします。

委員長からの報告を求めます。

総務文教常任委員長 松田町議会議長、平野由里子殿。総務文教常任委員会委員長、南雲まさ子。

総務文教常任委員会所管事務調査報告書。本委員会で継続審査とした今後の生涯学習センターのあり方について、調査研究の結果を、松田町議会会議規則第76条の規定により、次のとおり報告します。

1、調査の件名。今後の生涯学習センターのあり方

2、調査の目的。松田町生涯学習センターは、町民等の生涯学習の拠点として長年にわたり様々な事業を実施してきた。しかし社会情勢の変化やニーズの多様化などにより、生涯学習センターのあり方や事業内容の見直しが必要であることから、現状と課題等を把握し、今後のあり方について調査研究することとした。

3、調査の内容。本委員会では、「今後の生涯学習センターのあり方」を調査項目として、令和6年2月～令和7年7月まで計19回の委員会を開催した。松田町生涯学習センターの現地視察、また「生涯学習センターの今後のあり方」に関するアンケート調査を実施し、インターネット回答71名を含む363名の方から回答を得た。調査結果から、問題点・疑問点、また現状等を所管課課長、係長へヒアリングを行い、今後の生涯学習センターのあり方について協議・検討した。

4、アンケート調査のまとめ。

(1) 高齢者の方々は、町民大学をはじめ、スポーツなど、学習意欲と健康に対する関心の高さがうかがえる。今後も幅広い年代の参加を目指し、多様な学習の機会の提供が必要となる。

(2) 子育て世代をはじめ、社会人の方は、なかなか生涯学習に参加する時間が限られ参加率も低いのが現状である。学校を卒業した社会人となった後も、新たな知識・技能を身に付け、キャリアの形成、再就職支援につながるなど、実社会で役立つ講座の提供が求められている。

(3) 生涯学習の活動を通して友達づくり、同じ目的趣味を持つ人との仲間

づくりを求めて参加される方が多い。

#### 5、その他の検討項目。

(1) 寺子屋まつだは、生涯学習センターの活用において重要な事業であるため、運営体制について、さらに研究をして持続可能な事業にしていく必要がある。

(2) 多様な講座を開催するために、講師の確保として人材バンクの登録者の声かけを行っていく必要がある。

#### 6、提言。

今後の生涯学習センターのあるべき姿として、子供から高齢者まで気軽に集い交流し、多様なニーズに対応した講座等の充実で、生涯学習センターでの活動の幅を広げ、町民が生き生きと利用できる環境の創出に努められたい。

具体的な提案。

ハード面。

- (1) フリースペースの更なる充実
- (2) 正面入り口に館内案内図の掲示板設置
- (3) フリーW I - F I の強化

ソフト面。

- (1) 町民大学等の動画配信の調査・研究
- (2) 男の料理教室の再開
- (3) スポーツ施設（ボルダリング・ジム）は、民間のノウハウを活用して、稼働率を上げる工夫
- (4) 外国語講座の充実
- (5) 実務的な講座の開催
- (6) 広報力の強化

その他。

(1) 図書館の蔵書を有効活用するために、旧寄中学校の図書室の開放と指定管理者との連携

- (2) 町内団体の登録制度と利用料減免条件の見直し

以上でございます。

議

長 総務文教常任委員会委員長の報告が終わりました。これより質疑に入ります。ございませんか。なしでよろしいですか。

(「なし」の声多数)

質疑なしと認めます。

以上で、報告を終わります。